

はしがき

本報告書は、平成16年度に行った補助金研究「アフガニスタンにおける平和構築と日本」の研究成果をとりまとめたものです。

アフガニスタンでは四半世紀にわたって内戦が続き、国際社会から見放された紛争といわれていました。内戦によって国内統治制度は崩壊し、まさに同国は破綻国家でありました。2001年の9・11米国同時多発テロは国際社会に安全保障認識の転換を迫りましたが、その一方で、国際社会の目をアフガニスタンへと引きもどすことにもなりました。その結果、2001年12月にボン合意をもってアフガニスタン内戦は終結し、国際社会による平和構築・国家建設の取り組みが開始されました。

日本外交にとって平和構築が主要な課題の一つであると考え、当研究所では東ティモールやアフリカ地域における取り組みなど、これまでもさまざまな事例研究を実施しました。そしてアフガニスタンにおける平和構築へも、日本が中心的支援国の一つとして関与した事例として、継続して関心を払っています。同国の現状や支援の分析、また今後の平和構築に対するインプリケーションを導くことは、アフガニスタンに対する平和構築支援をよりよいものにするのみならず、今後の平和構築に向けた長期的な提言作りにも役立つことでしょう。

議会選挙の実施される2005年は、アフガニスタンにとって、また、支援をする国際社会にとっても転換点となる年です。その節目となる年にあたり、本研究はボン合意以降3年間の平和構築の取り組みを振り返ることで、日本における平和構築の位置づけと今後の平和構築へのインプリケーションを検討しました。

本報告書に盛り込まれた見解は執筆者個人のものであり、当研究所の意見を必ずしも代表するものではありませんが、本報告書が平和構築を考察するうえでの一つの視点を提供することができれば、当研究所にとり大変喜ばしいことです。

最後に、本報告書の作成にご尽力、御協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成17年 3月

財団法人 日本国際問題研究所
所長代行 宮川 眞喜雄

研究体制（敬称略）

本研究の実施に当たっては、以下の体制にて行いました。

佐渡 紀子	当研究所研究員
富田 角栄	当研究所研究助手